

⑩ 冬芽の観察

1 子どもたちに伝えたいこと

- ・冬芽を観察することで、枯れているように見える木も冬芽を持ち、いろいろ工夫をしながら寒さに耐えて生きている姿に気がついてほしい。
- ・冬芽の下に残る葉痕のおもしろさから、木への親しみを持ってほしい。

2 実施時期：12月～2月

3 実施場所：野外（公園、校庭、雑木林）、教室

4 対象学年：全学年

5 関連教科：生活科、総合、理科

6 時数：2時限

7 事前準備

- ・公園管理者への申請（必要な場合）
- ・フィールドの下見
- ・いろいろな木の冬芽の用意
- ・冬芽の資料の作成と印刷

8 当日

(1) 準備する材料や道具

学校：印刷した資料、記録用紙、虫眼鏡、色鉛筆

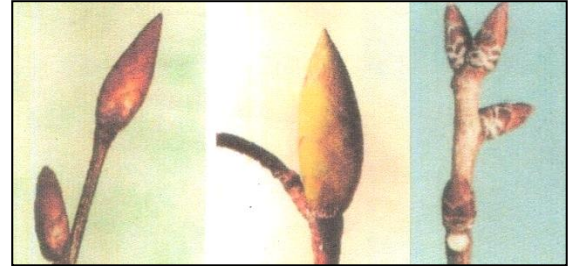
どんぐりクラブ：冬芽サンプル、剪定バサミ、カッターナイフ、虫めがね、ボランティア袋（ゴミ拾い用）

(2) 授業の流れ

- ① あいさつ
- ② 冬芽の観察の方法、注意事項の説明
- ③ 野外に出て冬芽の説明
- ④ 自由に冬芽の観察
- ⑤ 教室にもどり、自分の好きな冬芽をスケッチ
- ⑥ 終わりのあいさつ

9 備考

- ・学校の近くに、冬芽の観察ができるフィールドがなければ、教室に冬芽を持ち込んで実施することも可能である。
- ・冬芽を採取する際は採っても大丈夫か確認する。また、必要以上に採らない。



<いろいろな冬芽>

<葉痕（葉が落ちたあと）>



<キハダ>



<クズ>



<観察風景>